ヤマト福祉財団 NEWS

ヤマトグループ賛助会員向けニュース（季刊）
発行部数12万部・非売品
YAMATO WELFARE FOUNDATION
No44
10月20日発行　2014 Autumn

『夢へのかけ橋プロジェクト』
2014年度障がい者の働く場パワーアップフォーラム開催

一つでも多くの施設が、一人でも多く。働く障がい者の給料増額を

収穫最盛期を迎えたピアファームの梨園で作業を行うみなさん。写真左はヤマト運輸労働組合福井支部・藤澤幹雄支部委員長

私たちの賛助会費が活かされています
■障がい者給料増額支援助成金
助成先レポートVol.21（福井県あわら市）

すべては高い給料を実現するため
僕らは農業を選び、果樹を選んだ …… p08

私たちの賛助会費が活かされています　■奨学生レポートVol8
いっぱいの夢を抱く若きパラリンピック選手
スポーツは自由に
自分らしさを表現するツール …… p10

この街で一緒に生きていく
障がい者のクロネコメール便配達
毎日、確実に届けたという達成感を手にしています。 …… p12

夢へのかけ橋プロジェクト
経済的な自立力を備えた新しい福祉に向かって

『夢へのかけ橋プロジェクト』
2014年度障がい者の働く場パワーアップフォーラム開催

一つでも多くの施設が、一人でも多く。働く障がい者の給料増額を

経済的な自立力を備え、障がいのある方の夢へのかけ橋となれる施設へ。そんな願いを込めてスタートした『夢へのかけ橋プロジェクト』も2年目を迎えます。その入口となるパワーアップフォーラムを7月11日に東京会場、25日に大阪会場で開催しました。

貧困線を超えるには月額給料3万円以上が必要

基調講演を行う有富理事長

「みなさんには経済的な自立力を備えた施設として、一人でも多くの利用者さんの幸せをかなえてほしいのです」。有富理事長は、基調講演でそう呼びかけると、障がいのある方が直面している就労問題を次の数字で説明しました。

「15歳～64歳と働ける年齢の障がいのある方は、全国で約492万4000人いますが、就労できているのはわずか11%だけです。そのうち企業で働いている方は7・7%、3・3%が福祉施設で働いています。しかし2012年に福祉施設が利用者さんに支給している平均月額給料は、1万4190円であり、障害年金とあわせて年収は約[※1]94万円です。これは2010年の国民の相対的貧困線の年収112万円以下であり、それを超えるには、月額給料3万円以上が必要となります」[※2]。

利用者さんの夢へのかけ橋となれる施設を増やしたい

ヤマト福祉財団では障がいのある方に、働きがいのある仕事と給料が増えれば、豊かで幸せな人生が実現できると考えました。そこで、昨年より全国の福祉施設を支援する『夢へのかけ橋[※3]プロジェクト』を三位一体で展開しています。

給料増額へのヒントを得たいと熱心に聞き入る参加者

「1年間プロジェクトを進めてきてわかったのは、本気になって成功者のマネをしていけば、給料増額の糸口がきっとつかめるということでした」と有富理事長。

そこでヤマト福祉財団は、3万円以上の給料を支給している施設を給料増額の参考事例として紹介する『経済的自立力達成事業所紹介サイト』を立ち上げました。また、

「成功した施設は、きちんと日次・月次決算を行い、PDCAで次の改善策を立て実践しています。他の施設もこれができるようにと、日々きちんと入力すれば売上を管理できるクラウドサービスの『収支管理システム』も開発しました。現在は、実践塾の塾生専用ですが、他の施設にも利用していただくことができます。これらシステムを活用し、一つでも多くの施設に給料増額に取り組んでほしいと思います」。

障がい者のディーセントワークの実現に、施設の意識改革を

時流講座では、きょうされんの藤井常務理事が「障がいのある人のディーセントワーク」をテーマに講演を行い、平成26年に批准された障害者権利条約についても解説をしていただきました。

「障害者権利条約が国連総会で採択される際〝私たち抜きに私たちのことを決めないで〟と自ら障がいのある方たちが会議で発表しました。そこで浮き彫りにされたのは〝障がいは本人の中ではなく社会に存在し、障がい者を取り巻く環境が、障がいを重くも軽くも変えてしまう〟という事実です」。

障がいのある方に最も身近に接しているのは施設職員であり、障がいの重さを問わずどれだけ働く機会・環境を用意できているのかをいま一度見つめ直してほしいと、藤井氏は問いかけます。

「ディーセントワークとは、働きがいのある人間らしい仕事であ

り、それに見合った収入を得られるかが大切です。一人でも多くの利用者さんにディーセントワークを提供できるように、いま施設のトップ、職員の現場力が問われているのです」と話しました。

いまの状況から一歩踏み出す勇気を

続いて小倉昌男賞の受賞者講演が行われ（詳しくはp4へ）午前の部を終了。午後は、夢へのかけ橋実践塾の塾長による1年間の活動報告からスタートしました。その後、ジャンプアップ助成金の助成先の代表者による活用事例報告、利用者さんの働く姿を紹介するDVDも上映しました。

フォーラムの締め括りは「経済的な自立力を備えた経営」をテーマにしたシンポジウムです。藤井氏をコーディネーターに、三人の塾長、講演や報告をされた方々がシンポジストとなり、参加者の質問に答え、給料増額に向かってどう考え、行動すべきかを話し合いました。

時流講座を行うきょうされんの藤井常務理事

参加された多くの施設がさまざまな課題やジレンマを抱えています。「新たな一歩を踏み出すやる気が出てきましたか」との藤井氏の問いかけに、大半の方が挙手。利用者さんのために一歩踏み出したい、そんな思いを胸に多くの参加者が会場を後にしました。

いま抱える問題点などをシンポジストに質問する参加者

「経済的な自立力を備えた経営」をテーマに行われたシンポジウム

「夢へのかけ橋実践塾」塾長が振り返るこの１年

亀井塾塾長
トップが変わらなければみんな溺れてしまう

（社福）ひびき福祉会
理事長　亀井 勝氏

給料を増額するには、儲けることができる事業に変え、数字を把握して、だれになにを売るのかを考え、行動しなければなりません。これは職員の力だけでは無理。一年間塾をやってきて、組織トップの意識改革こそ必要だと痛感しました。魚は頭から泳ぐもの。溺れてしまわないようにトップがしっかりしてください。

武田塾塾長
こだわるべきは、利用者さんの給料です

（社福）はらから福祉会
理事長　武田 元氏

しっかりと支給計画・販売計画を立て必ず実行する、やるべきことをきちんとできれば、１年間で１万円の給料を３万円に変えていくことは容易です。いままでのやり方にこだわっていないで、駄目なら別の方法を考え、実行する決断をしてください。私たちがこだわるべきは、方法より利用者さんが手にする給料なのですから。

新堂塾塾長
自分たちで気づき、行動することが大切

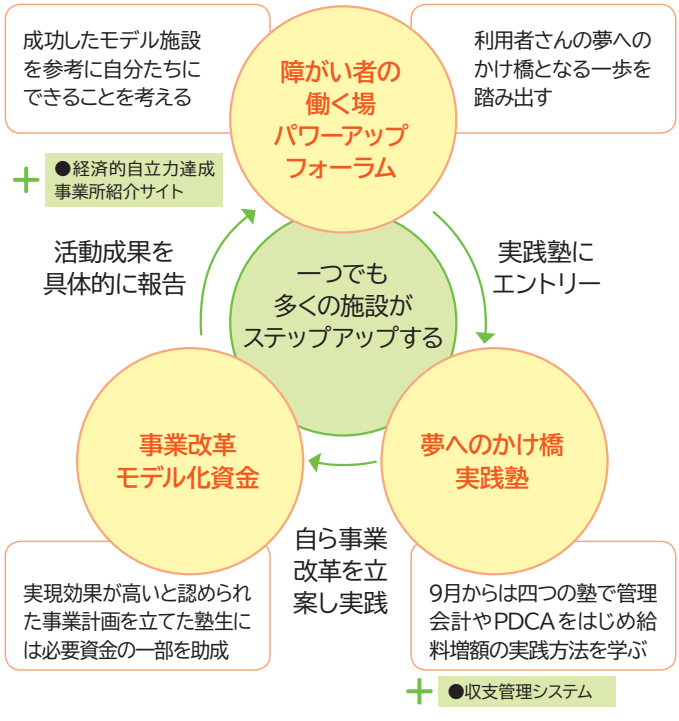
（社福）武蔵野千川福祉会常務理事　新堂 薫氏

この１年、塾生の現場を見せてもらい、整理整頓の徹底から作業工程や作業動作の分析までを行い、生産性の高いラインづくりを一緒に進めてきました。そこで感じたのは、人から指摘されてから考えるのではなく、まず自分たちで気づき、行動していく大切さ。それができなければなにも変えていくことはできません。

※3 三位一体で展開する『夢へのかけ橋プロジェクト』とは

まずは「パワーアップフォーラム」に参加。利用者さんの給料増額への決意を固めた施設が「夢へのかけ橋　実践塾」にエントリーします。塾生となった施設は、自ら目標を立て、それを達成するための設計図をつくり、実践していきます。この塾生の計画を実現するための援助が「夢へのかけ橋事業改革モデル化資金」です。資金援助を受けた塾生は、利用者さんの給料を３万円、５万円、さらに10万円へのステップアップを目指します。実績を築いた施設は、パワーアップフォーラムなどで成果を報告。次に続く施設への指標となります。

このように三つの柱を一体化することで、強力な支援となり、一つでも多くの施設が障がいのある方の夢をかなえられるようにします。



※1）平均月額給料約1万4,000円×12ヵ月＋障害基礎年金（2級）77万2,800円=約94万円。
※2）OECDの基準に基づき日本国民の可処分所得の実質中央値224万円の半分として算出。

東京会場

○開催日：7／11（金曜）
○会場：全社協・灘尾ホール（千代田区霞が関）
○来場者数：194名

（社福）こころん　熊田芳江常務理事

農業を事業の柱にした事例に参加者の関心は高まる

東京会場では、台風8号が直撃し交通機関がマヒする中、194名もの参加者が集まりました。

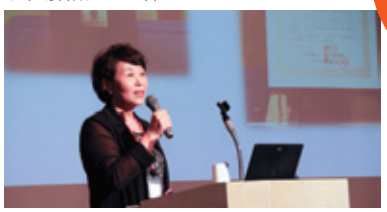
小倉昌男賞受賞者である（社福）こころんの熊田芳江常務理事は『農と福祉の地域ネットワーク』をテーマに講演。「一生懸命に農作業を行う利用者さんの姿を見て、次第に地域の方のご理解・ご協力を得られるようになりました。いまでは地元農家が育てた作物も取り扱い、カフェの料理の材料や直販など地産地消にも貢献しながら、売上アップにつなげています。さらに、里山再生プロジェクトとして、福島県白河ならではの素材を使ったさまざまな商品開発・販売を行う地域ネットワークの構築も地域一体となって進めています」と話しました。

NPO法人ピアファームの林 博文代表理事は『販売あっての栽培生産、売売目標を作付け』と題し、ジャンプアップ助成金を活かした農業の取り組みの事例を報告しました（本誌・助成先レポート8P参照）。

シンポジウムでは「精神障がいの利用者さんでも農業に従事できるだろうか」「農業に挑む上で大切なこととは」「仕事はそこそこでよいと言うトップの説得方法は」「仕事の支援と介護の支援は両立できるか」など、参加者からの質問や悩みが次々とあがりました。

大阪会場

○開催日：7／25（金曜）
○会場：大阪国際会議場（大阪市北区中之島）
○来場者数：197名



（社福）キャンバスの会　楠元洋子理事長

障がいの重さに関係なく利用者さんみんなに働く機会を創出

大阪会場で行われた小倉昌男賞受賞者講演は、今年4月に1日約2000食のお弁当の販売に成功した（社福）キャンバスの会の楠元洋子理事長です。「障がいの重さに関係なく一人でも多くの利用者さんが働く機会を創出している」という話に、参加者は熱心に耳を傾けていました。

「そもそもお弁当屋をはじめたのは、一人でも多くの利用者さんに少しでも多くのお給料をと考えたからです。現在もお弁当事業を通じて出会えた人やビジネスチャンスを活かし、新規事業に挑戦し続けています。キャンバスの会のもう一つの事業の柱であるクリーニング事業も、お弁当屋のユニフォームを自分たちで洗濯してみてはと発想し立ち上げた事業です」と話しました。

ジャンプアップ助成金の事例報告では（社福）よさのうみ福祉会の野田川共同作業所の小谷勝己所長が、助成対象である「九条ネギの栽培」の取り組みをはじめ、利用者さんの能力に応じたさまざまな仕事を提供していることを報告しました。

シンポジウムは「障がいの重い利用者さんにできる仕事は」「つくった商品を他県で販売する方法は」「仕事のできる利用者さんが就労した後、どうやって他を育てていくか」など、参加者から次々と質問があがり盛り上がりました。

インターネットを活用した二つの支援

「5万円の給料を3人に支払うことも大事ですが、3万円の給料を20人に支払える施設を増やせば、一人でも多くの利用者さんの夢を実現できる」。この考えのもと、ヤマト福祉財団では〝ネットを介して全国の福祉施設が、気軽に活用できる二つの支援システム〟を用意しました。

経済的自立力達成事業所紹介サイト

『経済的自立力達成事業所紹介サイト』を開設

3万円以上の給料を支給している施設を取り上げ、紹介するのが、10月開設予定の『経済的自立力達成事業所　紹介サイト』です。このサイトを訪れた方は、業態、施設の特長（場所・利用者さんの人数）など、ご自身の施設と似た条件の事例を簡単に検索でき、今後の事業改革の参考にできます。

例えば「同じような場所・利用者人数の施設は、なにを行って給料増額実現している?」「お弁当をつくっているが、成功している施設となにが違う?」「田舎は商品を買ってくれる方が少ない。他はどうやって販売している?」「市からクリーニング事業の声がかかっている。他がどんな設備や方法を採用して成功したか知りたい?」など、さまざまな角度から参考事例を調べることができます。

簡単に操作・計算できる収支管理システム

クラウドサービスで提供『収支管理システム』

一般企業で日次・月次決算報告を行うのは経営の基本であり、そのデータをもとに、さらなる売上アップの戦略を立て実行します。福祉施設でも給料増額に、収支管理は必須です。

夢へのかけ橋実践塾では、塾生に計画の達成度を日々、確認することを義務としていますが、不慣れなソフトを使ったり、自分で毎日計算作業をするのは大変です。

そこでヤマト福祉財団では、日々の売上や経費の数字を入力するだけで、簡単に日次・月次決算を行い、さらに取り扱い商品ごとの売上傾向などもチェックできる『収支管理システム』を開発し、塾生にクラウドサービスで提供しています。

パワーアップフォーラムでシステムを紹介したところ、10の施設が利用を希望。後日、その活用法などについて研修会を開き、現在活用しています。

『ジャンプアップ助成金』助成先からの報告（大阪会場）

ジャンプアップ助成金は、障がい者の給料増額に一定の実績のある施設・事業所が、さらに多くの給料を支払う事業を起こすために必要な自己資金の不足分を、定額500万円まで助成するものです。具体的に助成金はどのように役立てられているのか、大阪会場で報告された2013年度の助成先「野田川共同作業所」の事例を紹介します。

大阪会場で報告を行う小谷勝己所長

野田川共同作業所
（就労継続Ｂ型、生活介護、就労移行）
●対象事業…九条ネギ栽培のための育苗ハウスの新設
●平均給料…2万9,417円（2012年度）
●目標給料…4万4,000円（2016年度）

苗の成長が早くなり、作付け回数も増えて、給料増額に手応え

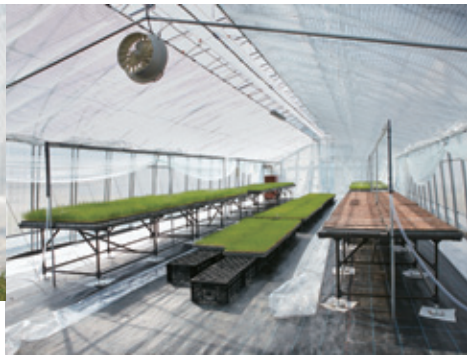
「九条ネギを京都のブランドに」との京都府の施策支援を受け、野田川共同作業所は、２００５年より九条ネギ栽培をはじめました。しかし、夏は酷暑、冬は降雪という山陰地方の厳しい気候に苦しめられ、生産量は伸び悩みます。そんな時、指導を受ける農家より「育苗さえうまくいけば８割は成功する」とアドバイスを受け、新たに育苗ハウスの建設を計画。自己資金の不足を補うため、ジャンプアップ助成金を活用しました。

「完成した育苗ハウスは、風雪害に強い構造で、新たに設置した遮光カーテン、換気扇、さらに自動温度管理できるボイラーで、１年中栽培に適した温度に保てます。また、上水道も敷設し、いままで５㎞も離れた作業所から水を運んでいた水やり作業もぐっと楽になりました。育苗ハウスで育てることで、短い生育期間で苗は立派に育ち、１年間で作付けできる回数も増やせるようになりました。収穫量も伸びはじめ、給料を増やしていける手応えを感じています」と小谷所長。

地域と協力し合い、より高品質な九条ネギの栽培へ

与謝野町は、京都市内から2時間半もかかる海と山に囲まれた過疎化・高齢化の進む田舎町です。町の活性化のために地域が一丸となって取り組み、野田川共同作業所も、地元の高校が海産物に被害を与えるヒトデを使って作成した堆肥を畑に使い、より高品質な九条ネギの栽培に挑んでいます。

「収穫した九条ネギは、都心部のデパートをはじめ、地元のスーパーや飲食店などで販売・使用されています。自分たちが育てた農作物が、地元で活用されている姿を見た時の利用者さんはとても誇らしげです」と小谷所長はうれしそうに報告しました。



助成を活かし建設した九条ネギの育苗ハウス

2014 年度は、九つの事業所に助成。動きはじめた三つの助成先からこんな声が届きました

障害者就労継続支援センターわっこ（就労継続Ｂ型）

中型製品の樹脂成形にも対応できる新設備を導入

2003年から樹脂成形事業を行っていますが、小型製品の生産が海外に流れ、給料増額には中型製品の対応が必要と助成を活用しました。６月に中型成形器と周辺機器、冷却装置も導入し、早速、受注した農業資材の成形を開始。この話題は地元紙にも取り上げられ“県下一の給料を達成しよう”と意気込んでいます。

NPO法人 イーハトーブとりもと（就労継続Ａ型）

レトルト工場の新設へ、真空煮炊き釜を購入

レトルト新工場の完成間近の６月27日、待望の真空煮炊き釜がクレーン車で運び込まれました。カレーのレトルトをつくる際、ルーを冷ますのに２日を要しますが、真空煮炊き釜なら短時間で冷却できます。他にも岩手の食材を使ったジャムなど、新たな商品づくりへ、みんな心を躍らせています。

共働作業所 ピーターパン（就労継続Ｂ型）

厨房の改修工事や機器を購入し、弁当事業を開始

新たに開始したお弁当事業は、１日70食の目標を掲げていましたが、オープン初日は104食、その後も80～90食と好調を維持しています。味で選んでもらえるお弁当をと地元旅館で料理長をされていた方をスカウト。自分たちで運営する養鶏場の会津地鶏の卵を使ったオムライスは、特に評判になっています。

※2015年度の福祉助成金の募集を11月１日より開始します。詳しくは、ヤマト福祉財団のホームページをご覧ください。

【夢へのかけ橋実践塾】 第4回合同研修会、楠元塾開講式を開催

『残り1年で5万円へ』各塾生が、1年間の成果報告を行う

9月26日・27日、夢へのかけ橋実践塾の第4回合同研修会が開催されました。2年目を迎える武田塾・新堂塾・亀井塾に加え、今年から新たにお弁当をテーマにした楠元塾もスタート。10名の新塾生が、利用者さんの夢をかなえる一歩を踏み出しました。

塾生による1年間の成果報告

後1年で成果を上げてほしいと呼びかける有富理事長

【第4回合同研修会】

3万円、5万円の給料へ 2年目の新たな決意

「利用者さんの平均月額給料を1年後3万円へ、2年後には5万円へ」を目標に、昨年9月27日にスタートした夢へのかけ橋実践塾。2年目に入る節目となる第4回合同研修会の初日は、事業改革モデル化資金の助成を受けた塾生をはじめ、各塾生が1年間の成果報告を行いました。着実に目標を達成してきた塾生、一歩足らずに苦戦している塾生とさまざまですが「利用者さんの幸せ度は、お給料の高さに比例する」という強い思いのもと、事業改革を進めています。

有富理事長は「利用者さんの夢をかなえていくには、みなさんが商売のプロになるしかありません。プロとアマの違いは、いかにお客様の視点から求められるものを提供しているかです。それぞれの塾長のもとで〝これならお客様も増えていく〟そう思えるような新たな改革案を練り、職員もトップも一丸となって必ず実践してください」と激励しました。

2日目は、第12回小倉昌男賞受賞者であり、現在は(有)ドアーズの代表取締役である柴田智宏さんの講演からスタート。現在柴田さんは、年間1億3000万円の売上があった製麺業をかつての同僚に譲り、障がいのある方だけではなく高齢者などの就労難民となっている方に少しでも多くの働く機会をと、新しくペットフード事業を立ち上げています。「10年前、私もみなさんと同じようにここで学び、時には厳しい批評を受けながら、それでも負けずに踏ん張ってきました。これ以上はもうダメだと思ったその先に本当の限界があります。あきらめず変わっていきましょう」と話しました。

その後は、各塾に分かれて分科会を開始。これまでの反省点を踏まえ、今後の具体的な対策を立てていきました。

パワーポイントを駆使して成果を報告

分科会が行われ残り1年の課題を確認

塾長から鋭い質問が

楠元塾長のキャンバスの会とは

お客様目線のお弁当で、1日約2000食を販売

キャンバスの会では、1日約2000食のお弁当を販売し、年間1億4300万円を売り上げています。この数字を出すために、楠元塾長がなによりも大切にし続けているのは、お客様の声です。

「事業をはじめる時、お客様に満足いただけるものができるまではお弁当を販売しないと決め、メニューと味を追求しました。市役所や商店街のみなさんにモニターになっていただきましたが、現在も週2回アンケートをとり、改善を続けています。また、高齢者向けの配食サービスでは、この食材はダメ、こんなものが食べたいなど、いろいろな要望が出ますが、どんな声もしっかりと次のメニューに反映し“キャンバスの会は自分のためにあるお店”と思っていただいています」と楠元塾長は話します。

また、キャンバスの会では、お弁当事業の他に、リネン事業も事業の柱へと成長させています。

「一つの事業を進めていく中でいろいろな人との出会いがありますが、そこには新たなビジネスヒントが隠されています。必要なのは人の話をしっかりと聞き、情報を収集し、だれになにをどう売るのか、目標数字、事業計画を明確にイメージできるようにすることです。そして、イメージができたら迷わず行動に移す、これが大事だと思います」。

熱心に聞き入る塾生

経験こそ力になると話す(有)ドアーズの柴田さん

【楠元塾開講式】

10名の塾生が、お弁当屋をテーマに売上拡大を目指す

今回新たに開講した「楠元塾」の分科会は、楠元洋子塾長と新塾生の自己紹介からはじまりました。

楠元塾長は「お弁当事業、お弁当の宅配事業は、みなさんが想像している以上に厳しいものです。これからいろいろなことをやっていかなければなりませんが、利用者さんのために最後までやり遂げていきましょう」と挨拶。その上で、現在、楠元塾長が理事長を務めるキャンバスの会が提供している多彩なお弁当のメニュー、さらに作業環境や品質・衛生管理の方法、また売上・経費・在庫などの管理方法までを写真とともに紹介しました。

「いまみなさんがつくっているお弁当が、本当にお客様の求めているものなのかを見直してください。人は見た目で判断してはいけませんが、お弁当はまず見た目が大事。いくら美味しくても見映えがしなければ選んでもらえません。メニュー以外にも仕事の進め方、収支や在庫管理、衛生管理の方法など、いろいろと改善しなければならないことがあるはずです。キャンバスの会では、お客様からの味の評価やご要望をリサーチし、それを製造する職員に必ず伝えています。また売上目標、売上達成率、在庫状況など、必要な情報は職員、利用者さんにわかりやすく〝見える化〟する工夫も行っています。こうしたノウハウもお教えしたいと思います。私にできることは、みなさんが給料増額に向けて扉を開くお手伝いにすぎません。重要なのは、自分たちがどう実行するかです。やるからにはしっかり数字を出していきましょう」と呼びかけました。

楠元塾では、塾生の義務として収支管理システムへの毎日のデータ入力と、毎月PDCAの実践報告の提出を決定。さらに、これからお弁当事業をはじめる塾生は、だれに向けてどんなお弁当をつくり、いくら売上を上げるかの事業計画を、すでにお弁当事業を行っている塾生は、3万円の給料を達成するための売上計画を立てることなど、それぞれの課題を確認しました。

楠元塾長と、給料増額へ新たな一歩を踏み出した10名の塾生たち

●事業改革モデル化資金

事業改革モデル化資金とは：「夢へのかけ橋」実践塾の参加施設の立てた事業プランから、効果が高いと認められるものに対し、新規事業を起こすため、また事業改革を進めるために必要な道具や働く環境整備の資金を助成するというものです。

	申請施設名	件名	金額
亀井塾	社会福祉法人いわみ福祉会	いわみ蜜衛門(サツマイモ)の干しいも製造の設備導入	1,501,500円
〃	社会福祉法人茄田町社会福祉協議会	レストラン厨房機器整備事業	2,984,724円
〃	B型事業所ぶどうの木	薩摩ワッフル新規出店事業	3,000,000円
〃	NPO法人サポートセンター木立	クッキー製造部門の新設	3,000,000円
武田塾	特定非営利活動法人吉野コスモス会	スチームコンベクション・業務用冷蔵庫・殺菌庫の導入	2,189,300円
〃	サポートスクエアぱおぱお	自然卵養鶏を中心とした循環型農業事業	2,750,000円
〃	社会福祉法人ゆずりは会	枝豆定量袋詰機の導入	551,650円
新堂塾	武蔵境ワーキングセンター	エアー給紙丁合機	2,800,000円

私たちの賛助会費が活かされています ■ 障がい者給料増額支援助成金

すべては高い給料を実現するため

助成先レポート Vol.21

僕らは農業を選び、果樹を選んだ

NPO法人ピアファーム
福井県あわら市
就労継続B型

8月22日に新たに経営を引き継いだ三国町のスーパー、スタッフのみなさんと

後継者不足は農業の分野においても深刻です。そうした状況を逆転の発想で捉え、攻めの農業で障がい者の自立、地域の振興に役立てようとしている人たちがいます。福祉の感覚を排し、アグリビジネスに徹する姿勢をそこに見ました。

収穫真っ最中、ピアファームの梨園

ズバリ農業で高給を出す！

夏ももう終わろうかという季節。しかしナシの木の下は活気づいていました。たわわに実ったナシは収穫の真っ盛りです。

訪れたのは福井県の最北端「あわら市」。関西の奥座敷とも呼ばれる芦原温泉でつとに知られ、年間90万人が訪れます。

2008年より果樹や露地野菜の生産・販売を通して、この地で障がい者の自立支援に意気軒昂なのがピアファームです。現在、平均給与4万2000円超を実現させています。

さらにいっそうの収益向上を目指して、昨年度ジャンプアップ助成金を申請。新品種ナシ導入のため、自ら開墾した5814㎡に40aのナシ棚を整備しました。

「僕ら始めるときには、高い工賃・収益を出すことを目的に農業を、果樹を選んだんです。だから『農福連携』なんて、とくに意識していないんです」

農業で高い給料を出すことが最大の目標だと豪語するのは林博文代表理事です。

中途半端ではできない仕事

長く地元の福祉団体で、出張事業所（分場）や福祉工場の立ち上げなどを手がけていた林さんは果樹栽培、とくにナシとブドウに目をつけました。

ナシは地域の特産として定着していましたが、後継者不足で耕作放棄地が増えていたこと。ブドウは農林水産省のデータをもとにした統計『都道府県ランキング』によると、福井の生産量は全国でも下から3番目。地産地消の需要に応えればチャンスが大きいこと。ハウス栽培にすれば雨天の仕事も確保できます。そして、ともに一般的な野菜に比べ、販売単価が高いことに商機を確信したのです。

しかし、これまでの経験から、福祉の延長で農業に手を出すことの限界も悟っていました。

「果樹は防除だ、摘花だと手がかか

労働組合支部執行委員長

助成先 訪問 シリーズ16

喜んで働いているのが伝わってきます

●ヤマト運輸労働組合
福井支部執行委員長
藤澤幹雄さん

皆さん本当にきちんと挨拶していますよね。それがとても強く印象に残っています。

社内では社員同士、挨拶をしても返ってこないこともあります。施設の方は必ず目一杯元気よく挨拶してくれます。いまスワンベーカリー福井店が主管支店へ午前中、販売に来られるのですが、その方たちも挨拶は元気がよくて清々しいです。

それと仕事を嫌がるどころか進んで、自分から喜んで働いているのが伝わってきました。言葉を交わしてみても、障がいをお持ちだとはぜんぜん分かりませんでした。皆ごくふつうの人たちだと感じました。

今年から「事故ゼロ」キャンペーンのグッズを障がい者施設で製作してもらっています。野球大会やバレーボール大会の応援Tシャツもぜひと考えています。今日の経験を職場でもっと広め、みんなで理解を深めていけたらと思います。

藤澤委員長も梨の収穫を手伝わせていただきました

る。手塩にかけた分だけ品質は良くなるが、福祉職員のまま会議や出張を優先していたら果樹生産は務まらない。質の悪い品を流通させてしまったら、ブランドを築いてきた地域にだって迷惑がかかります」

当財団の助成金を活用して整備したナシ棚。収穫は3年後

それならば、ストレートに取り組んだ方がいい。林さんは独立し、このNPO法人ピアファームを立ち上げました。

収穫と同時に、品種や大きさを見て、ナシの選別を行う

なにより、売り切る覚悟

「販売あっての栽培生産、完売目標を作付け」を徹底するのがピアファーム流。

収穫を終えた午後に行う出荷作業

まず品目ごとに、栽培作付経営指標を定めて管理しています。ハウス栽培のブドウならば、1kgの平均単価は1200円。10a当たりの平均収量は1400kgで平均粗収益は約160万円という具合です。

2011年には「認定農業者」の承認も得ました。

「認定農業者になると、5年毎に経営計画書を提出して目標を達成しなければいけませんが、低利融資が受けられたり、農地の取得が可能になるなど、規模の拡大がしやすくなる。収益の向上を大きく左右します」

そのうえで売り切る覚悟が欠かせないと林さんは語ります。

「木になったナシをどう売るか、畑で考えることが必要です。もしスーパーのバイヤーに掛け合って、全部卸すことで話がまとまれば、それこそ畑から携帯電話1本で1000万とかになると思うんですよ。そういうことをみんなで理解して、売り切る意識を徹底すること。

売れんかったら行商してでも売る。1袋買ってくれるお客さんのところに1袋を持っていくんじゃなくて、たとえば5袋持っていく。そのうち呆れて5袋、買ってくれますよ。（笑）そういうことの積み重ねです」

この8月末からは、閉店した地元スーパーの経営を引き継ぎ、新たな挑戦が始まります。こちらは兎にも角にも月給5万円を出すと決めました。

新品種のナシが実を結ぶのは3年後。一歩ずつひたむきに前進する力強さをピアファームに感じました。

無農薬、有機栽培にこだわらず、既存の農家を手本に慣行農法で収益基盤を固めるべきという林博文代表理事

直売所も併設されているピアファーム事務所

学ぶことが愉しいから、実現したい夢があるから…。
理想を持って、将来を切り拓こうとしている奨学生の皆さんを訪ねます。

障がい者奨学金制度
社会のために貢献したいと勉学に打ち込んでいる障がいのある大学生に対し、返済不要で月額5万円を助成しています。現在40名が本制度を活用しています。

私たちの賛助会費が活かされています

奨学生レポート Vol.8

スポーツは自由に自分らしさを表現するツール

阿部友里香さん ▽大東文化大学国際関係学部国際関係学科1年

いっぱいの夢を抱く若きパラリンピック選手

■4年で果たしたソチ入賞

今年3月のソチ。雪の山岳コースを一本のストックで駆け抜ける18歳の姿がありました。クロスカントリースキー15㎞クラシカル立位でパラリンピック初出場ながら、見事8位入賞を果たした阿部友里香さんです。

岩手県山田町の生まれ。パラリンピックのため遅れて開かれた一人だけの卒業式を終え、この4月スポーツ推薦を利用して、大東文化大学国際関係学部に進学しました。

「スポーツはほら、みんなと同じようにできるじゃないですか。それがスポーツのいいところというか。中学校ではバレーボール部で、ふつうにみんなと混じってやってました」

小さいころから身体を動かすことが好きだった阿部さんが、突然スキーに目覚めたのは中学2年の冬。たまたまテレビで見た2010バンクーバーパラリンピックがきっかけでした。

■練習は答えてくれる

「私にもできる。これやってみたい」自ら日本障害者スポーツ協会に連絡を入れると、ジュニアの養成にあたっていた指導者荒井さんを紹介されました。2011年4月には、障がい者スキー実業団チームの下部組織に入部。高校は親元を離れて県下のスキー強豪校、盛岡南に進みました。

「やっぱり最初のほうは全然ダメ。健常者の大会にも出たんですけどビリばっかり。でも月日を重ねるうちに次第にビリから

奨学生のキャンパスにお伺いして贈呈式を行いました

吉田伸吾さん　専修大学　法学部

西海朱理さん　鳥取大学　医学部

細野真依さん　長野大学　社会福祉学部

出産による事故で左上腕麻痺に。障がい者実業団チーム・日立ソリューションズ「チームAURORAジュニアスキークラブ」に所属。大学生と二足のわらじを履く。2011－12年ワールドカップ最終戦で海外大会デビュー。現在はクロスカントリースキーにライフル競技が加味されるバイアスロンにも挑戦。

脱出していきました」

阿部さんにとってクロスカントリーの魅力とは？

「練習した成果が大会の結果につながると言いますか…。本当にそれだと思うんですけど、あとは自然の中を走るんで気持ちいいんです。都会の空気じゃなくて田舎の自然の中を」と笑います。スキーと真摯に向きあった濃密な3年が、ソチへの切符を掴ませたのだと分かりました。

■積極的に動けば世界は変わる

現在は体育会スキー部と実業団チームに籍を置き、取材後はすぐに全日本の合宿でニュージーランドへ…。とはいえ授業にもついていかないといけない身分。週3回あるベトナム語の授業は面白いけれど、休むとすぐに分からなくなってしまうとか。

「前期のテストは1週間徹夜してがんばりました」

将来は旅行会社に就職したいという阿部さん。障がい者のツアーを引き受けてくれる旅行会社が少ないと実感するからです。

「障がい者と聞くとみな腰が引けてしまうみたいで。障がい者だって自分で何でもできる人もたくさんいるのに。だったら私がそうした企業に就職して、橋渡しができたらなと思って…」

故郷の山田町は東日本大震災で甚大な被害を受けました。阿部さんの実家も津波にさらわれたといいます。中学卒業間近の「3・11」でした。しかし結果としてそれが本気でスキーに取り組む契機にもなったと彼女はいいます。目下の目標は2018年の平昌（ピョンチャン）パラリンピック。復興がなかなか進まない故郷を、自分の活躍で応援できればとも思っています。

あふれる夢が阿部さんの原動力です。

この街で、
一緒に生きていく。

公益財団法人ヤマト福祉財団
障がい者のクロネコメール便配達事業

毎日、確実に届けたという達成感を手にしています。

東京都北区赤羽南二丁目。ＪＲのターミナル駅である赤羽駅から車で約5分。小さな商店が点在する住宅街に、〝来夢〟はあります。メール便配達事業を始めて9年目。職員から、メール便配達のすべてを任されている、4人のメイトさんのイキイキとした仕事ぶりを取材しました。

８年前のスタート時から続けているメイトさんの蝦名勇二さん（左）と松田平之介さん（右）。いつもは1人で担当していますが、取材の日は特別に2人で配達していただきました。2人とも、町を知り尽くしているベテランです。

東京都北区にあるＪＲ赤羽駅は、新宿、東京、横浜、大宮などに通じる路線が多数乗り入れるターミナル駅。そこから徒歩で約15分。賑やかな駅周辺とは異なり、〝来夢〟のある赤羽南二丁目は、古くから住む人やお年寄りが多い静かな住宅街。どこか懐かしい雰囲気が漂います。

ベテランのメイトさんは町の達人。

〝来夢〟がメール便配達事業を始めたのは8年前。元所長がヤマト福祉財団主催の「小規模作業所パワーアップセミナー」に出席したことがきっかけでした。メール便配達事業への誘いを受けて、すぐに3～4人のメンバーでスタート。今では4人のメイトさんが週に4日、1人が1日ずつ担当して配達しています。

〝来夢〟管理者の五月女和広さんは6年前に赴任。この町に慣れるために、まずメール便の配達を手伝ったそうです。「最初から担当しているメイトさんに付き添ってもらいながら、配達しました。私は慣れるまで大変でしたが、みんなは町を熟知しているから、スイスイ。すでに工夫されたルートができていました」

この体験から、ベテランのメイトさんにまかせれば安心と感じたそうです。

ヤマト運輸赤羽1丁目センターで持ち出し登録をして、仕分けをする松田さん（左）と蝦名さん（右）。

ヤマト運輸赤羽1丁目センターでメール便を受け取り、仕分け後、配達地域へ向かいます。

●北東京主管支店　赤羽1丁目センター
面積0.645㎢／人口11,406人／6,497世帯

●社会福祉法人あゆみ
就労継続支援B型事業所“来夢”
2006年からメール便配達事業を開始。1日の平均配達数、約50冊。
その他の活動は、歯科用品加工、箱組立、幼児用教材加工など。

「障がい者のクロネコメール便配達事業」
参入施設数 321施設　従事者数 1,618人（2014年8月現在）
お問い合わせは……（公財）ヤマト福祉財団　メール便担当
TEL 03-3248-0691　FAX 03-3542-5165
http://www.yamato-fukushi.jp/

メイトさん全員の頭の中に、地図がある。

週に4日、月水木金の朝9時半。曜日ごとに担当が異なるメイトさんが、自転車で、〝来夢〟から約7～8分のヤマト運輸赤羽1丁目センターへ。スタート時は2人ずつ組んで配達していましたが、今では、受け取り、仕分け、配達までを1人で担当しています。1日平均、約50冊。まずはメール便を、担当地域である赤羽二丁目の20番地台と30番地台の2つに分類。番地順にすばやく並べて、10分足らずで仕分けが完了です。すぐに自転車のかごに乗せて、配達地域へ移動します。

〝来夢〟のメイトさんは全員、頭の中に地図と番地が入っているそうです。だから、地図を見ないで、番地順に並べたメール便を、配達しやすい順番に並べ替えながら、投函して行くことができるとのこと。番地の順番が違う、道を挟んだ右と左の家も交互に配るなど、ムダのないルートで配達。毎日ほぼ11時までには仕事を終えています。

上／不明な住所表記を確認し合う松田さん（左）と蝦名さん（右）。松田さんは、配達先で分からないことは、ヤマト運輸のドライバーだけでなく、この町に詳しい人にも聞くそうです。酒屋、寿司屋、蕎麦屋などの出前の人の声から、生の情報が増えていくと話します。
下／しっかりと宛先を確認して投函する、蝦名さん。「笑顔で受け取ってもらえるとうれしい。仕分け作業が好きなので、得意なことが活かせる仕事に就きたい」と夢を語ります。

転入、転出などの情報は4人でしっかり共有。

新しいメイトさんには、ベテランのメイトさんが同行し、配達のあらゆることを教えるそうです。番地ごとに時計回りで号数が増えること、目印となる店や家の住所をまず覚えて、そのまわりの知識を増やしていくことなど。初めは虎の巻の地図があるそうですが、覚えるコツを伝授するので、短期間で配達地域を頭に入れることができるといいます。8年続けているメイトさんの松田平之介さんは、「部屋番号だけで、名前の表記のない家が増えていますね。転入転出も多いので、間違えないように、分からなければ持ち帰ることを徹底しています。4人で情報を共有することで、ムダがないようにコミュニケーションをとっています」と話します。

雨の日も雪の日もサービスの質を保つ。

メール便配達事業のスタート当時は徒歩で、次に自転車、そして、2年前に電動自転車へと切り替えています。電動自転車のメリットは倒れにくいこと。前後にかごがあるため、重いカタログなどがたくさんあっても、バランスがとれて安全に配達できるそうです。しかし、あくまでも無理をしないことが基本。メール便が多い日は2回に分けて配達します。

雨の日はメール便が濡れないようにカバーをかけ、配達の際は胸に抱えて慎重に。雪の日は3人で歩いて配達するなど、臨機応変に対応します。

「誤配がないことは当然のこと。濡らさない、破損しないなど、サービスの質を落とさないように心がけています」と、メイトさんになって6年目の弦間淳さんはきっぱりと話します。

対面で届けるのが好き、と言う弦間淳さん（左）。「お年寄りに声をかけることで、元気を届けたい。いつか人の役に立つ仕事がしたい」と目を輝かせます。
野澤信一さん（右）は2年目。初めはベテランのメイトさんに教わり、2～3カ月後には独り立ち。最初は混乱して大変だったそうです。「習うとやるとでは違う。難しいから、やりがいがあります」と話します。

メイトさんたちに仕事への思いを尋ねると、次々に明るい言葉が返ってきました。「達成感」「生きがい」「責任感」。メール便配達という仕事への誇りや愛情を強く感じます。

情報共有と情熱に感動。

「この周辺は、一戸建てや日中不在の方が多い地域。表札がないなど分かりにくいことも多いと思います。でも、正確で確実な仕事ぶりで、誤配の問い合わせはほぼありません。情熱と責任感に頭が下がる思いです」とヤマト運輸赤羽支店　三栗野和也支店長。

ヤマト運輸北東京主管支店メール便課　大畑大課長は、「情報が緻密に蓄積されているし、共有されている。しかも、品質に対する高いこだわりを持っている。このチームワークにこれからも期待します」と結びました。

夢が来ると書いて、〝来夢〟。仕事の充実感を糧に、メイトさんたちは今日も元気にペダルを漕ぎ出します。就労という夢の実現へ、一歩一歩近づくために。

〝来夢〟管理者の五月女和広さんは、「メール便配達は誰もができる仕事ではない。だから、責任感や体力などで頼れるメンバーを選んでいる」と話します。「ベテランばかりなので、請求書のまとめまで任せています。もちろんチェックはしますが、ほぼミスはありません。でも、ここに甘えることなく、就労して、ステップアップして欲しいと願っています」

前列向かって左から／弦間淳さん、松田平之介さん、蝦名勇二さん、野澤信一さん、後列向かって左から／ヤマト福祉財団東京支部　矢田部俊宏事務長、〝来夢〟職員　鈴木梨恵さん、〝来夢〟職員　佐々木裕子さん、〝来夢〟職員　石川順子さん、〝来夢〟職員　中村奈緒美さん、〝来夢〟管理者　五月女和広さん、ヤマト運輸北東京主管支店メール便課　大畑大課長、ヤマト運輸赤羽支店　三栗野和也支店長

スワン工舎卒業生訪問 17

新日本無線株式会社さま

精密機械の製造現場に勤務 「ありがとう」の声にやる気倍増！

同僚の仕事をサポートする佐藤さん。仲間の感謝の声にモチベーションも上がります。「焦らずに一つずつ仕事を覚え、できることを増やしほしい」と島村課長は温かく見守っています。

佐藤颯大さん（左）と島村和久課長（右）

■**ヤマト自立センター　スワン工舎新座**　スワン工舎新座は就労に必要なスキルの習得はもちろん就労先の開拓からジョブコーチによる就労後のサポートまで一貫したプログラムで、障がい者の自立支援に取り組んでいます。

■**新日本無線株式会社川越製作所**　マイクロエレクトロニクスとマイクロウェーブの二つの技術を軸に、マルチメディア時代に求められる国内外のさまざまなニーズに対応。法定雇用率2.02%（2014年6月現在）

必要な部品を揃え、組み立ての下準備を担当

佐藤颯大さん　新日本無線（株）川越製作所 マイクロ波コンポーネント事業部（平成26年5月17日入社）　佐藤さんの時給は821円と埼玉県の最低賃金785円※1を上回っています。7月の給料では「ファミレスでおばあちゃんにごちそうしよう」と計画しています。

※1）平成25年厚生労働省 埼玉労働局発表

みんなの仕事をサポート まじめな姿に信頼も厚い

新日本無線（株）川越製作所のマイクロ波コンポートネント事業部製造部製造課に勤める佐藤颯大さんは、衛星通信部品の組み立て、解体に付随するさまざまな作業を担当しています。「はじめてのことばかりで覚えるのが大変でしたが、職場にも慣れて楽しくなりました」と佐藤（颯）さん。

上司の島村和久課長は「佐藤くんの仕事は、他の職員が部品を組み立てる前作業や部品の用意などですが、お願いした役目をきちんとこなしてくれるので、みんなに信頼され、よい関係を築けています。彼には、もっといろんなことを任せていきたいですね」と話しています。

川越製作所では、障がいのある方を採用する際、まず人事がトライアルで自社の戦力になる人材かの適正を見極め、その上で現場と共に採否を判断します。「佐藤（颯）くんにはぜひうちで働いてほしいと、現場に推薦したんです」と人事本部人事部人事課の佐藤志織さん。「挨拶などの社会人マナーはもちろん、仕事の流れを理解し、与えられた仕事を自分ならこうすればうまく行えると工夫する力も持っています。なにより明るくて人柄が素晴らしい」と評価しました。

新日本無線（株）は、2014年6月現在、障がい者の法定雇用率2%を上回っていますが、職業上の重度判定をもった知的障がい者の採用は佐藤（颯）さんがはじめてで、入社してからコミュニケーション面の配慮などいろいろな気づきがありました。「いまは、島村課長が専任者となり、彼に仕事の指示を出すようにしています。その場、その場でいろいろな人が説明をしていると彼は混乱してしまいますし、あやふやな指示の仕方ではダメなんです。例えば〝この仕事はできる？〟と聞くと、やったことがない仕事の場合、素直な彼は〝できません〟と答えてしまいます。〝この仕事をやってください〟と指示すれば〝やってみます！〟と二つ返事で取り組んでくれます。彼のことは、他の事業部の人間も注目していますので、当社がさまざまな障がいのある方の採用を広げるよいきっかけになると思います」と佐藤（志）さんは話します。

入社して半年、職場で頼りにされる喜びと給料を稼ぐ楽しさを知った佐藤（颯）さん。趣味のゲームソフトを購入する余裕もでき「これからもずっとこの仕事を続けていきたい」と意欲を見せています。

ヤマトグループ労連『夏のカンパ』から 5214万円のご寄付を いただきました。 ありがとうございました

ヤマト運輸労働組合第69回定期中央大会が、9月11・12日、新潟県南魚沼郡の湯沢カルチャーセンターで開かれ、その中で『夏のカンパ』の贈呈式が行われました。夏のカンパは合計で7214万円集められ、うち5214万円を財団にご寄付いただきました。

今年はご寄付をいただいたみなさまに直接の感謝を伝えるため、有富理事長がヤマトグループの各労働組合の定期大会にお伺いしました。

有富理事長は定期大会の中でDVDやパワーポイントを使い、日本の障がい者の現状を説明。会社の価値、社徳を向上させるために社会貢献活動を行う別動隊として、ヤマト福祉財団の活動があること。障がい者自立を支援、障がい者の『幸せ度』を高めるために、いただいたカンパを役立てこれからも活動していくことなど、現場を代表する組合役員のみなさんへ約束して、お礼の言葉を結びました。

◀ヤマト運輸労働組合第69回定期中央大会（9月11・12日）

▼ヤマトオートワークス労働組合第11回定期大会（9月4日）

▼ヤマトボックスチャーター労働組合第9回定期大会（9月21日）

▲ヤマトグローバルエキスプレス労働組合第7回定期大会（9月6日）

▶ヤマトホームコンビニエンス労働組合第11回定期大会（9月11日）

夏の夜空にひびいたラッセラー 青森ふくしねぶた

8月4日、今年で34回目を迎えた「ふくしねぶた」が祭運行を出陣。ヤマト運輸ねぶた実行委員会も協力し、障がい者施設の利用者さんや関係者がハネト衣装に身を包み、祭を盛り上げました。

ヤマト福祉財団NEWS No.44
10月20日発行　2014 Autumn
公益財団法人ヤマト福祉財団

Information of the Art

ゴー・ビトゥイーンズ：こどもを通して見る世界展

開催期間▶2014年11月8日（土）～12月23日（火）
休 館 日▶毎週月曜日（11月24日は開館、翌11月25日は休館）
開催場所▶名古屋市美術館
アクセス▶名古屋市営地下鉄
地下鉄東山線・鶴舞線「伏見」下車、5番出口から南へ徒歩8分
地下鉄鶴舞線「大須観音」下車、2番出口から北へ徒歩7分
地下鉄名城線「矢場町」下車、4番出口から西へ徒歩10分
※当館には駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。
開館時間▶午前9:30～午後5:00、金曜日は午後8:00まで（入館は閉館の30分前まで）
観 覧 料▶

	一般	高校・大学生	小・中学生
当日	1,200円	700円	無料

○身体等に障がいのある方、および付き添いの方には割引制度があります。手帳をお持ちの上、窓口にてお問い合わせください
○名古屋市交通局発行の「一日乗車券」「ドニチエコきっぷ」を当日利用して来館された方は、100円割引
○「ゴー・ビトゥイーンズ：こどもを通して見る世界」展入場券で常設展もご覧いただけます
主　　催▶名古屋市美術館　読売新聞社　美術館連絡協議会　中京テレビ放送
後　　援▶愛知県・岐阜県各教育委員会　名古屋市立小中学校PTA協議会
協　　賛▶ライオン株式会社　清水建設株式会社　大日本印刷株式会社　損害保険ジャパン日本興亜株式会社　ボンポワン
協　　力▶名古屋市交通局
制作協力▶キヤノンマーケティングジャパン株式会社
企画協力▶森美術館
問い合わせ先▶
http://www.art-museum.city.nagoya.jp
TEL052-212-0001
巡回情報▶沖縄県立博物館・美術館
2015年1月16日（金）～3月15日（日）
高知県立美術館
2015年4月5日（日）～6月7日（日）

■ストーリーコー《Q&A》2010年

■ジャン・オー《パパとわたし No.29》2006年　所蔵：森美術館、東京

ゴー・ビトゥイーンズとは

デンマーク生まれのジャーナリストであり写真家であったジェイコブ・A・リース（Jacob A. Riis 1849－1914）。19世紀後半のニューヨークで貧困に苦しむ移民たちの取材を行ったリースは、英語の不自由な親に代わって通訳などの用事をこなすこどもたちを見て、彼らを「ゴー・ビトゥイーンズ（媒介者たち）」と呼びました。

大人と世界をつなぐ媒介者であるこどもたち

本展では、弱い存在でありながら自由な発想で前向きに生き、物事の本質を見抜く強さを持った現代のこどもたちを、大人と世界をつなぐゴー・ビトゥイーンズ（媒介者たち）ととらえます。世界各国の優れた20作家による映像、写真、絵画などの作品を通してこどもたちのさまざまな姿を紹介し、彼らの生きる社会の諸相を見つめます。私たちはこれからの世界をどのように生きるのか、ともに考え、語り合う場として本展覧会をお楽しみください。

■スヘール・ナッファール&ジャクリーン・リーム・サッローム《さあ、月へ》2011年

本展の美術品取り扱いにヤマトロジスティクス株式会社は協力しています。

笑顔があふれるクリスマス　スワンのケーキで

今年はじめて登場したフルーツケーキのハッピージュエル、ひとつのケーキで違った味が楽しめるハッピーアラカルトをはじめ、全部で8種類のケーキをご用意しました。
専門の製造ラインで作ったアレルギー対応ケーキは、おいしさもひとつ上のランクです。
家族のホッとするひととき・・・、スワンのクリスマスケーキをまん中にテーブルを囲みませんか。

ハッピージュエル
『フルーツが宝石みたいで、キラキラして甘すぎずおいしい』と試食会でも絶賛

ハッピー♡クリスマス
小麦・卵・乳製品不使用のアレルギー対応ケーキ

ハッピーア・ラ・カルト
売れ筋のアラカルトは、マンゴームース、キャラメル、抹茶、リンゴのケーキなど、8種類の味が楽しめます

お申し込み　11月　1日～12月　5日
お 届 け 日　12月20日～12月24日

●障がい者施設さんには、優待価格でご予約いただけます。

お問い合わせは
（株）スワン　担当：藤野、佐藤まで
TEL 03（3543）1067
http://www.swanbakery.co.jp/

みなさんの意見を反映する試食会を行いました

つたわるフォント
読みやすさを追求した書体

VEGETABLE OIL INK

詳細情報・最新情報は http://www.yamato-fukushi.jp/
ご意見、お問い合わせは y.zaidan@yamatofukushizaidan.or.jp まで